佐藤　弘・森　治樹

3. 小児気管支喘息に対して漢方治療が奏効した2症例

（第二病院小児科）本城美智恵・村上　理子・橋本　景子・
橋本　節子・村田　光範

特別講演

（司会）　佐藤　弘

西洋医学の立場から見た漢方治療の現況

（大阪医大第一内科教授）大澤　仲昭
当番世話人　佐藤　弘

1. 当科・針治療外来の現況について

（耳鼻咽喉科）

永末　裕子・代田　文彦・石井　哲夫

当科外来では，主に薬物治療に抵抗する難治性めまい患者と，治癒の遷延している顔面神経麻痺患者とを対象に針治療を行っている．治療方法は，めまいに対しては，頭頸部領域に圧痛点を求め，圧痛の強い順に左右側からそれぞれ2点ずつ合計4点を治療点としている．顔面神経麻痺に対しては，古典的に顔面神経麻痺の経穴といわれる6点と，口角の上下および患側の手に合谷と呼ばれる経穴を加えた9点を治療点として，2点ずつを組み合わせて15分通電し，極性を変えて5分，全部で20分間通電刺激を行う方法をとっている．

今回当科での針治療をとり入れた顔面神経麻痺新鮮例の治療法につき検討した結果，完全治癒率はベル麻痺89.2%，ハント症候群63.6%と比較的好成績が得られ，針治療は，麻痺の治癒を早め，麻痺の改善に対しては，有効であることが示唆されるが，後遺症の発現に対する予防効果，および治療効果は認められなかったことを報告する．

2. 高齢者に対する漢方治療の経験例

（第二病院内科2）

庄野　紀子・久米　由美・三森　功子・
佐藤　弘・森　治樹

われわれは漢方治療が奏効したと思われる高齢者3例の報告を行った．

症例1：80歳女．主訴は寝汗，体重減少．補中益気湯投与により寝汗の消失，兎糞様便の改善など全身状態はすこぶる快調となる．他にT. Chol低下，HDL-C上昇傾向を認めた．

症例2：80歳女．主訴は咳，微熱．喘息の診断の下にβ刺激剤投与後副作用出現．虚証であることから，補中益気湯＋苓甘姜味辛夏仁湯を基本に人参湯を就寝前投与．睡眠が良好となり，喘息発作，咳も治まっている．

症例3：82歳女．主訴は下腿の冷え．小腹不仁および下腿に浮腫を認める．下焦の虚と考え，八味地黄丸投与，投与後徐々に自覚症状消失．しかし経過中消化器症状出現．八味地黄丸の副作用と考えたが主訴に対し効果を認めたため転方せず六君子湯を併用し症状の消失をはかった．漢方薬は多方面の薬効が期待でき，作用も穏やかであり，高齢者に試みて良い薬剤と考えられる．

3. 小児気管支喘息に対して漢方治療が奏効した2症例

（第二病院小児科）

本城美智恵・村上　理子・橋本　景子・
橋本　節子・村田　光範

小児気管支喘息児で入院をくり返す重症例2例に適した漢方製剤を使用し臨床症状の軽減を認めたので報告する．

症例1：4歳男子．2歳より6回の入院をくり返していて，心理面での影響もでていたので柴朴湯3g分2で投与を開始した．その後，咳はごく時々でるものの発作はなく非常に良好な経過を示している．

症例2：3歳6カ月男児．1歳11カ月より5回の入院をくり返していて，慢性副鼻腔炎の診断もうけていた．小青竜湯6g分2で投与を開始した後，鼻症状が徐々におちつき喘息発作も消失した．使用6カ月目の今秋小発作が2回のみあったが，中～大発作はおこしていない．

通常の喘息治療のみで軽快しない重症例でも，漢方製剤投与により良好な臨床経過をとり外来治療のみですごせるようになった症例を報告した．